**赴任地訪問**

**11月27日、今回の赴任地DOTIに向かいました。カトマンドゥ空港からダンガディ空港へ行き、チャーター車でディパイヤルという町に向かいました。その途中あまりの景色の美しさに車を降りて、見とれておりました。それは、「夕日と雲海と月」がすばらしいバランスで目の前に広がっているのです。あの情景は強く印象に残っています。**

**11月28日、ディパイヤルからシリガリという町に向かいました。そこには、ティケショリさんが、働いている学校があります。校庭で待っていると、昨年尋ねたフィーダーホステルの女生徒達が集まってきてくれました。彼女たちの先輩が、何人もさくら寮に来ているので、みんな元気にしているよ。と、伝えました。ティケショリさんと一緒にシタさんがやってきました。二人ともしっかりした顔になったように思いました。**

**ティケショリさんの授業は、4年生で、“衛生について”の授業でした。自作の教材を使って、子ども達に語りかけるような授業で、子ども達も集中して授業を受けていました。１つ気になったのが、出席をとるときに､子ども達を番号で呼ぶことでした。3年生以上は、みんな番号で呼ぶと言うことでしたので、その日に集まってきてくれていた卒業生と一緒に、話し合い、考えてもらいました。どの学校でもそうだというので、また今後変えていきたいことの一つだと思いました。**

**この学校は、学年が下がるに従って、人数が減っています。プライベートスクールに行く子が増えているからだそうです。これは、ネパール中に広がっている傾向で、政府としても考えていかねばならないことと思いました。**

**1期生のサララさん、2期生のスリジャナさん、4期生のカルパナさんが、何日も歩いて来てくれました。校長先生が、“他の学校を見るのも勉強”と言ってくださったそうで、シタさんの学校にみんなで向かうことになりました。（サララさんは、用事があり帰りました。でも顔を見せてくれて本当にうれしかったです。）**

**午後1時、後ろの荷台にみんな(スリジャナさん、カルパナさん、ティケショリさん、シタさんの4人）を乗せた車は、シタさんの村に登る登り口に到着しました。そして、歩き出してすぐでした。靴を脱いでズボンをまくって、川を渡るのです。橋まで行って渡ってくると3～4時間かかってしまうそうです。総勢7人＋1人賑やかな山登りでした。途中スリジャナさんが、お猿さんかと思うほど素早く木に登って“アマラ”という実をとってきてくれました。酸っぱくって苦くて、でも、これを口に入れたら疲れがとれるような気がしました。それをしゃぶりながら、険しい山を登ること6時間。シタさんの家に着いたときには､もう真っ暗でした。**

**電気のない村でした。だからでしょうか？　あんな星空見たことありません。本当に美しいと感じました。**

**11月29日、10時に朝会が始まりました。ネパールでは珍しいではありませんか！！　男女混合で並んでいました。この件については、校長先生にとてもいい取り組みであると、話してきました。この朝会で、務氏がオカリナを演奏。静かな山村に美しい音色が響きました。子ども達は動くと叱られるのでしょうか？　直立不動で聞いていました。**

**シタさんの授業です。2年生の理科の授業ということでしたが、「うつる病気と、うつらない病気」についての学習でした。衛生面についても詳しく話していました。シタさんも自作の教材を用意して、わかりやすく授業を進めていました。**

**どちらの学校でも童歌をして、帰ってきました。**

**今回は、山を登る途中。“ここで私が心臓発作で倒れたら､どうなるんだろう！”こんな険しくて細い道、誰も助けることはできないだろう！そんなことを考えながら、歩きました。カルパナさんが、“シタの家は町から近くていいね.”というのです。感覚の違いにギョッとしました。さらにカルパナさんに“今度は私の学校に来て！”と言われて､迷わず“絶対に行けません。”と、答えました。会いたいときは､皆さんが町まで来てくださいね。と言って、登山口で別れました。5人も集まってくれて、楽しかったです。歩いて来てくれたことに感謝です。**